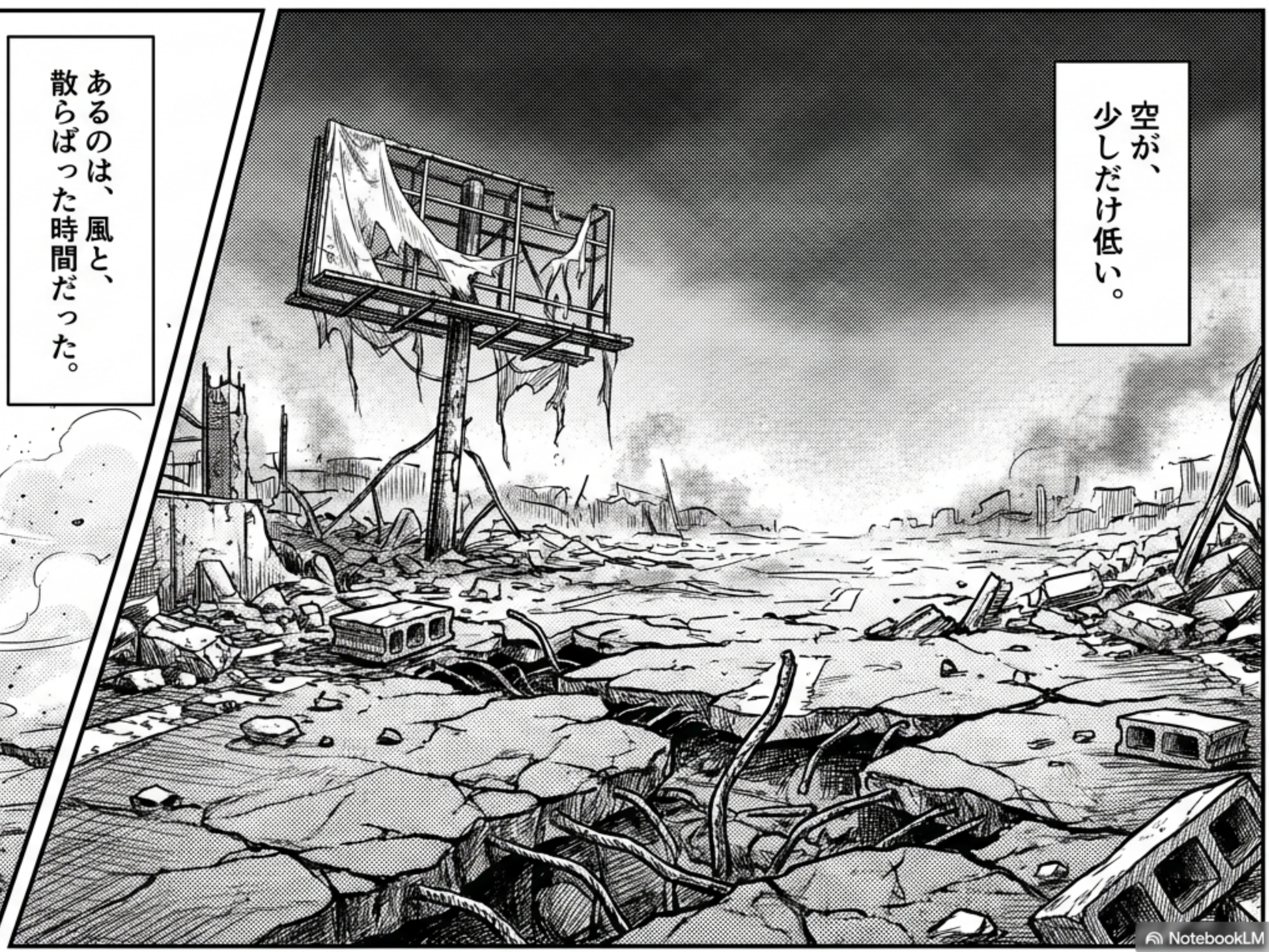
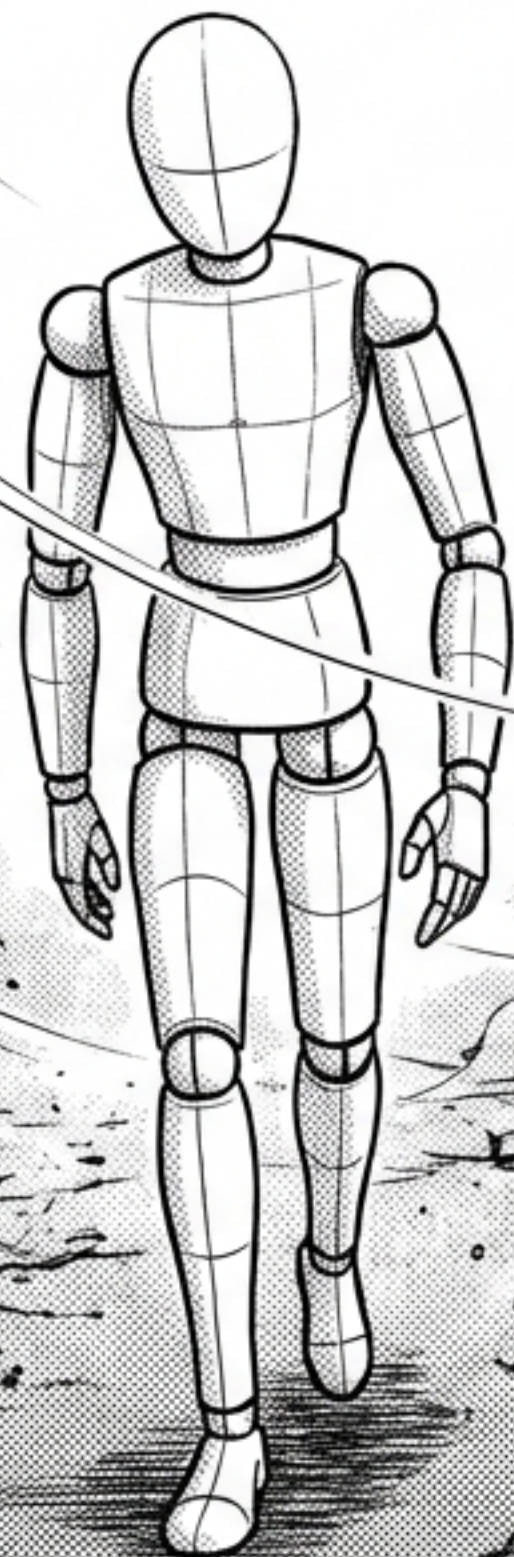
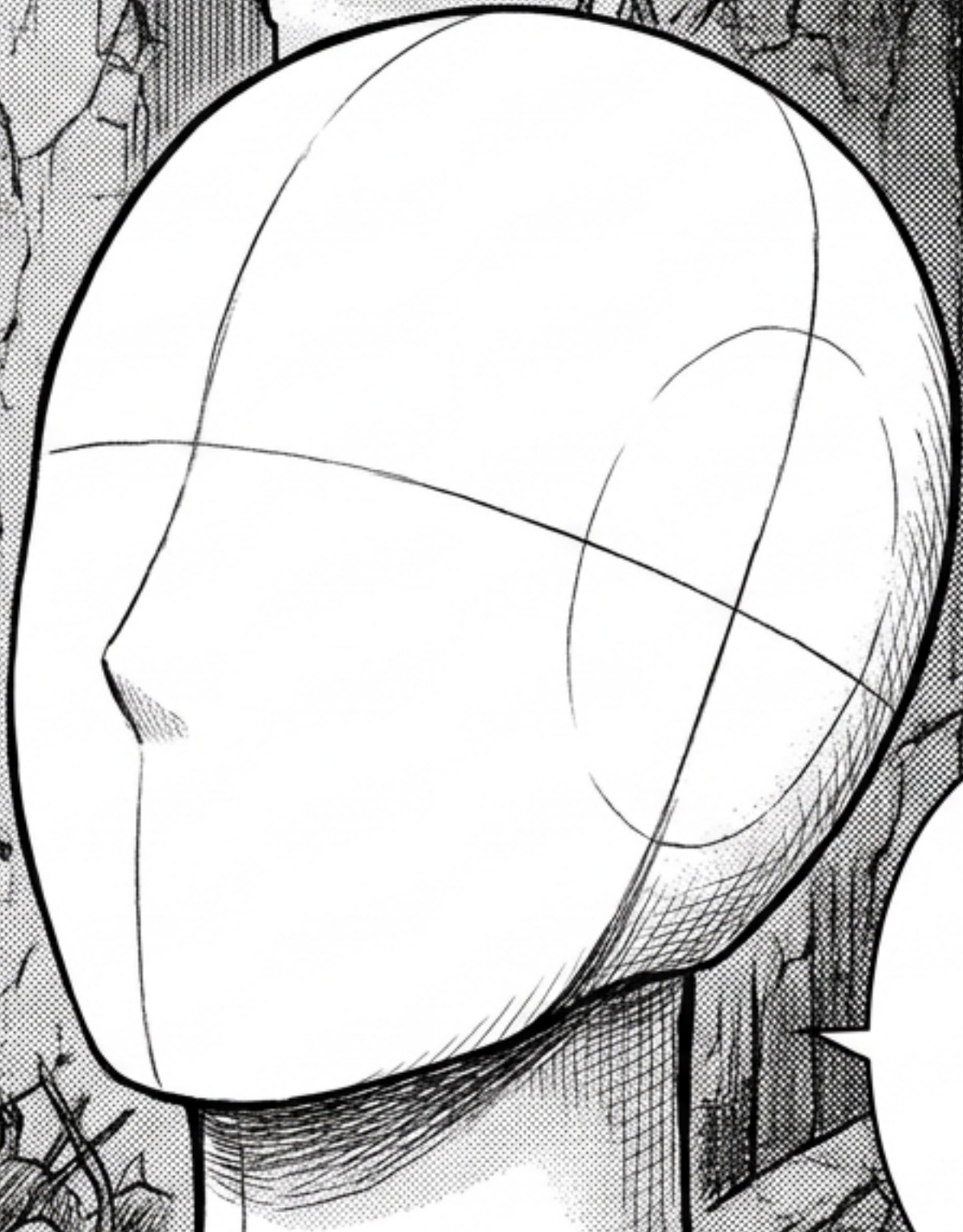


空が、
少しだけ低い。

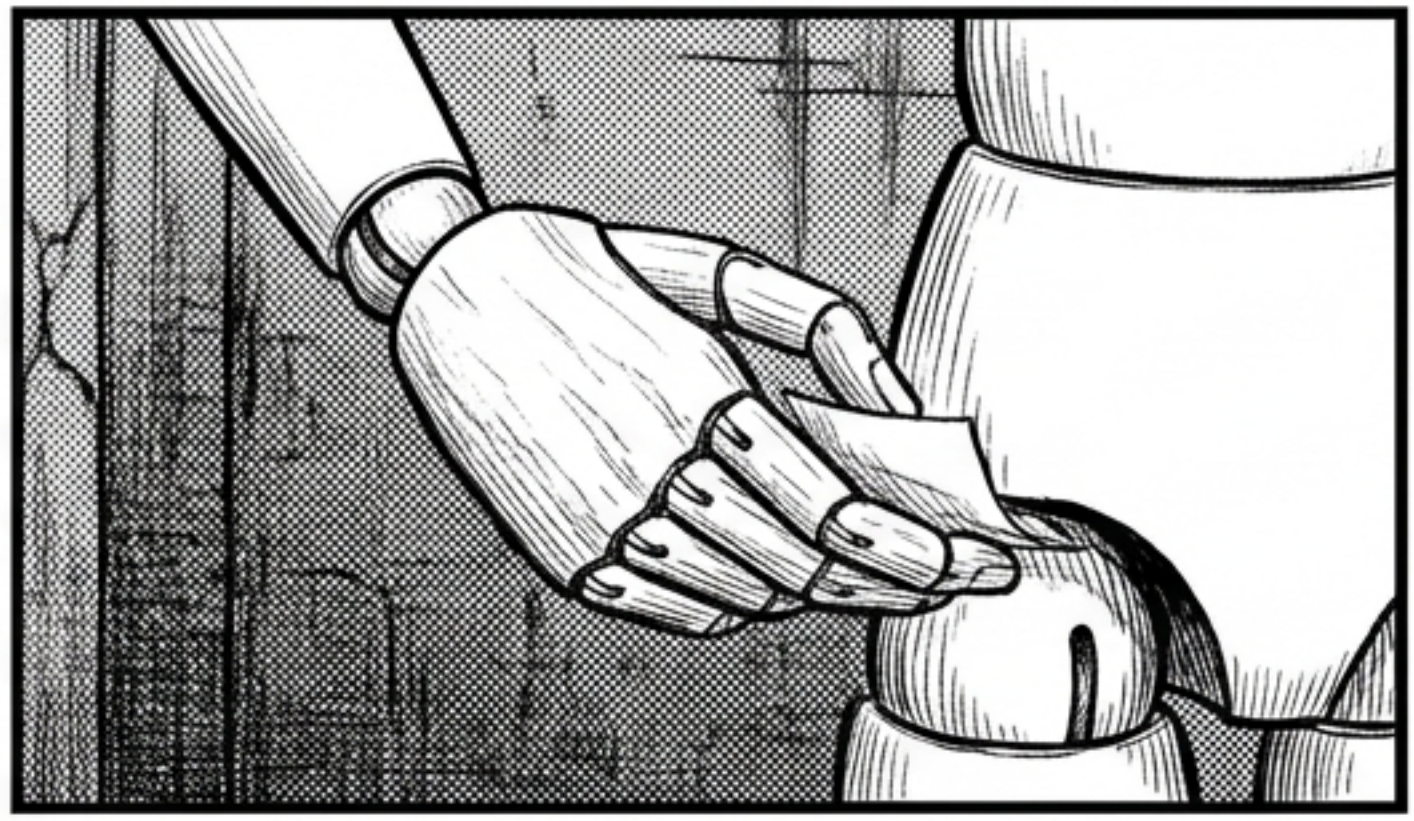
あるのは、風と、
散らばった時間だった。



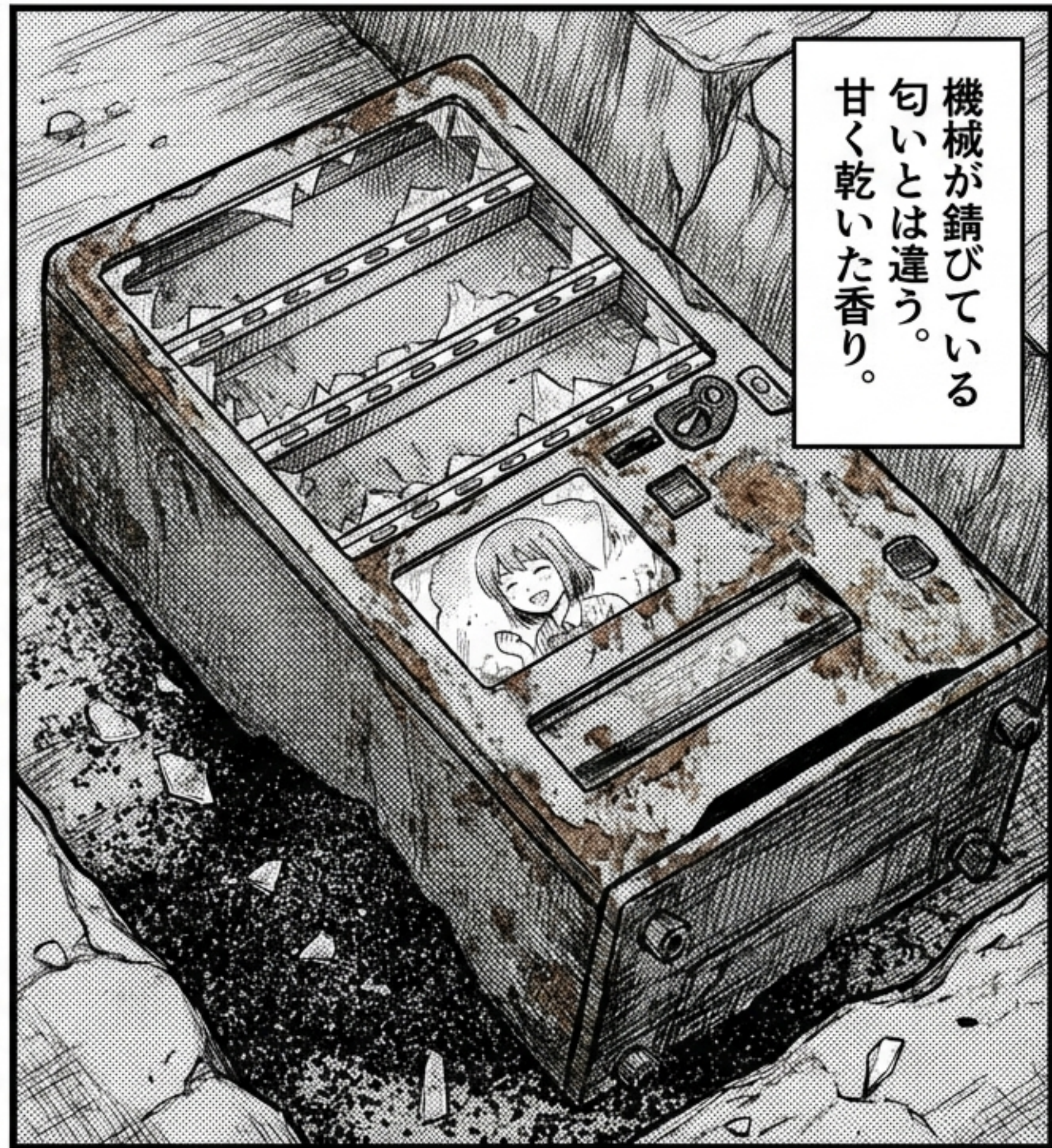
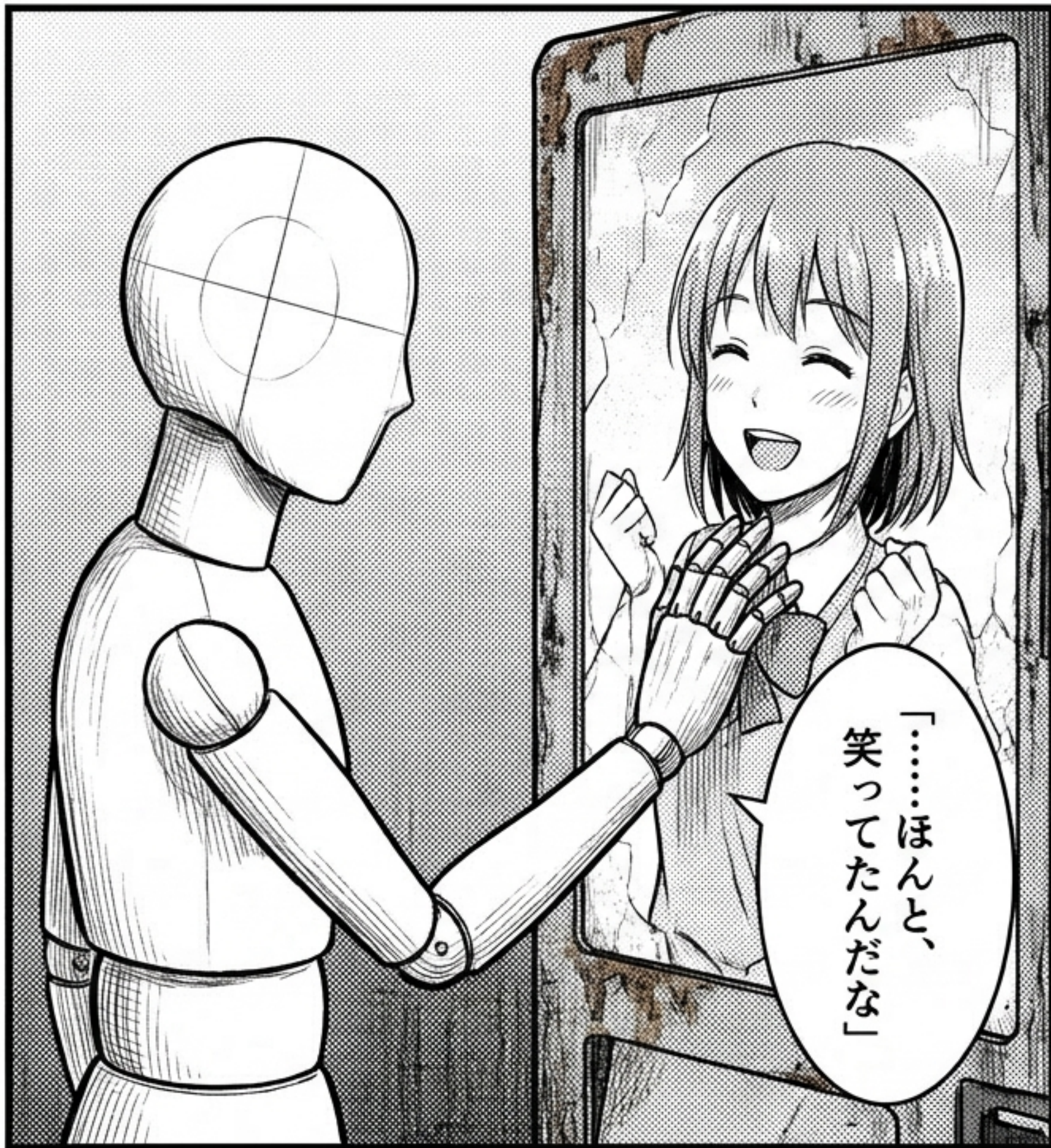
孤独は怖いものではない。
思考を止めず、
自分の呼吸を
確かめるための道具だ。



「今日、歩けた。
ってことなしてよ」



『今日、歩けた。
ってことなしてよ』



驚きは、すぐに消費して
消費してしまおう
体力のようなもの。
驚きを、観察に変える。

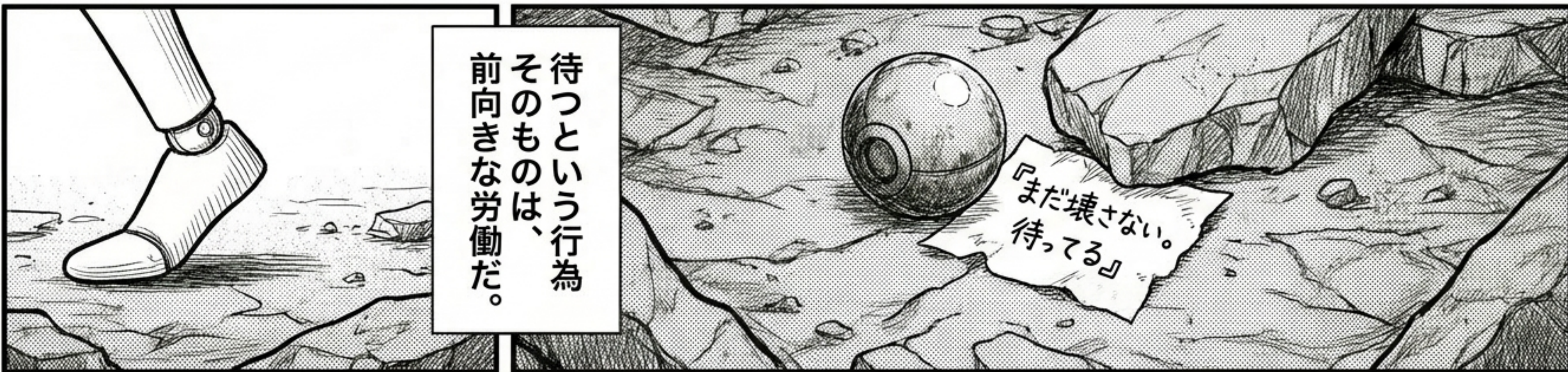
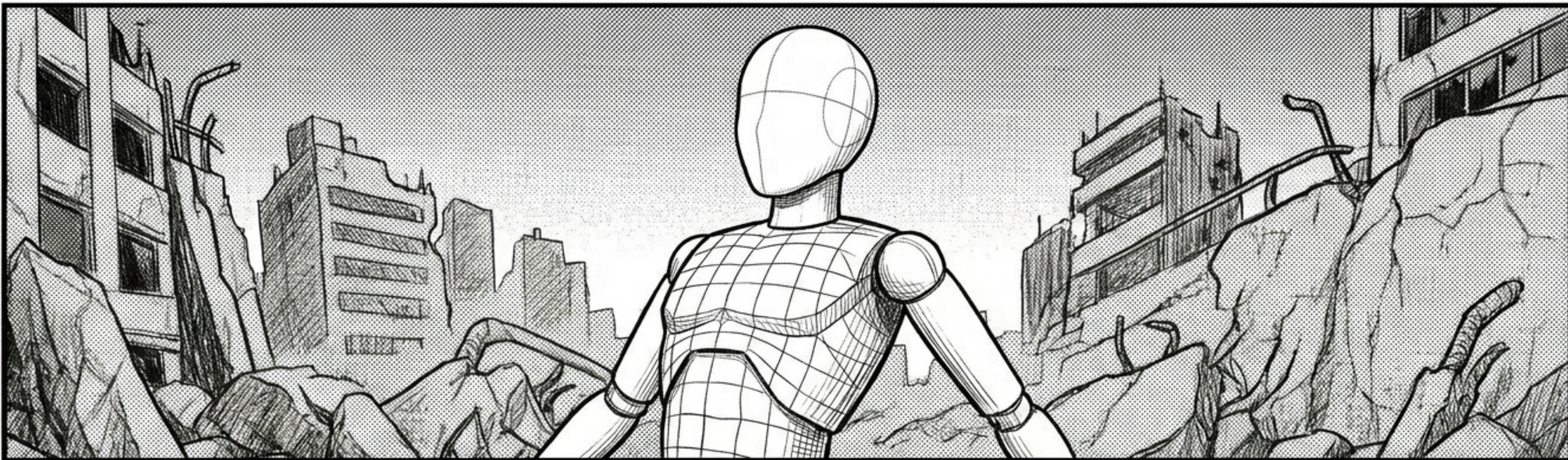
世界は、
終わりきっていない。

死んだものの点滅とは違う。

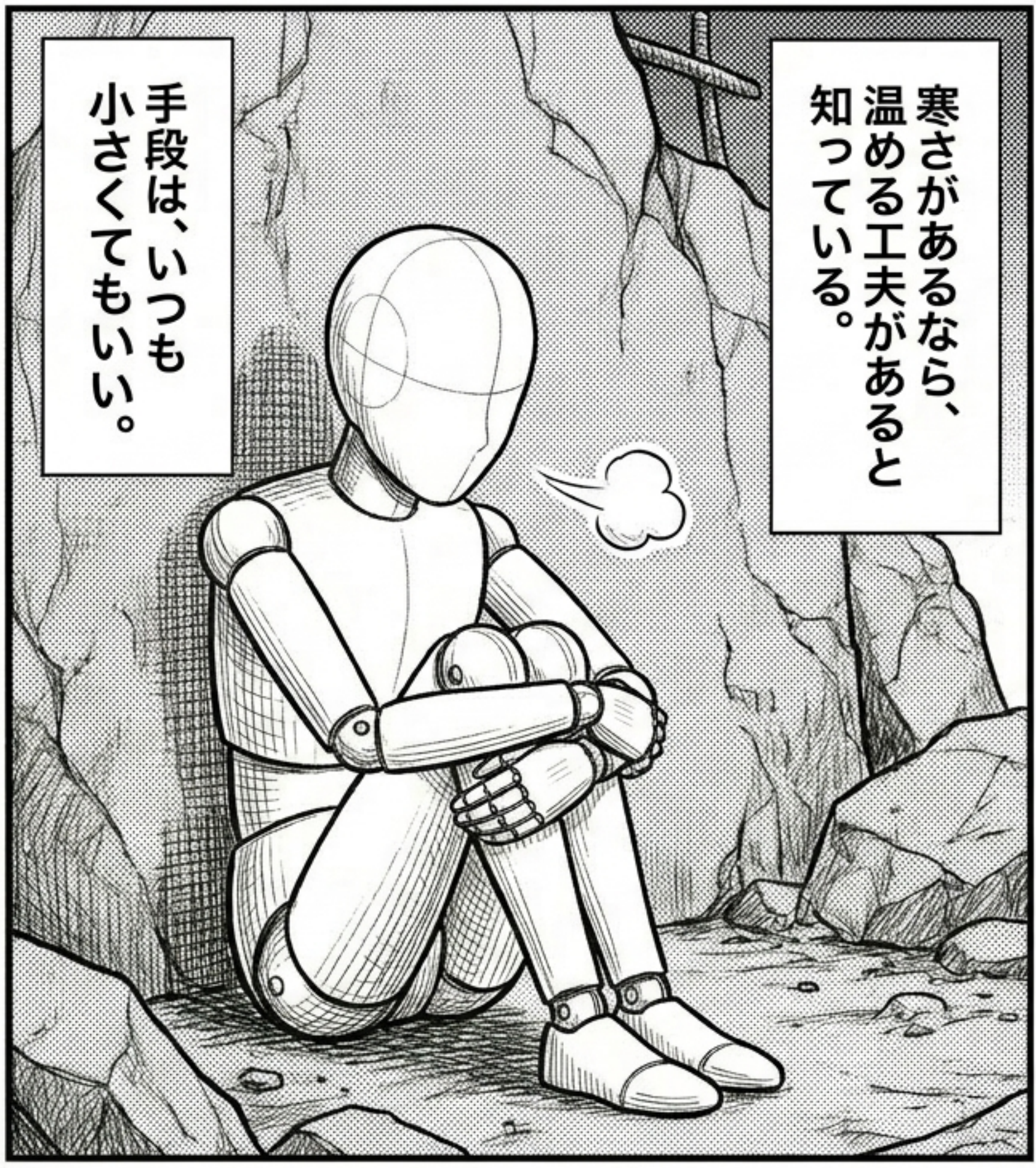
生きているものの、
迷いのある点滅だ。

482-91
00x1
772...

「……まだ動くのか」




待つという行為
そのものは、
前向きな労働だ。

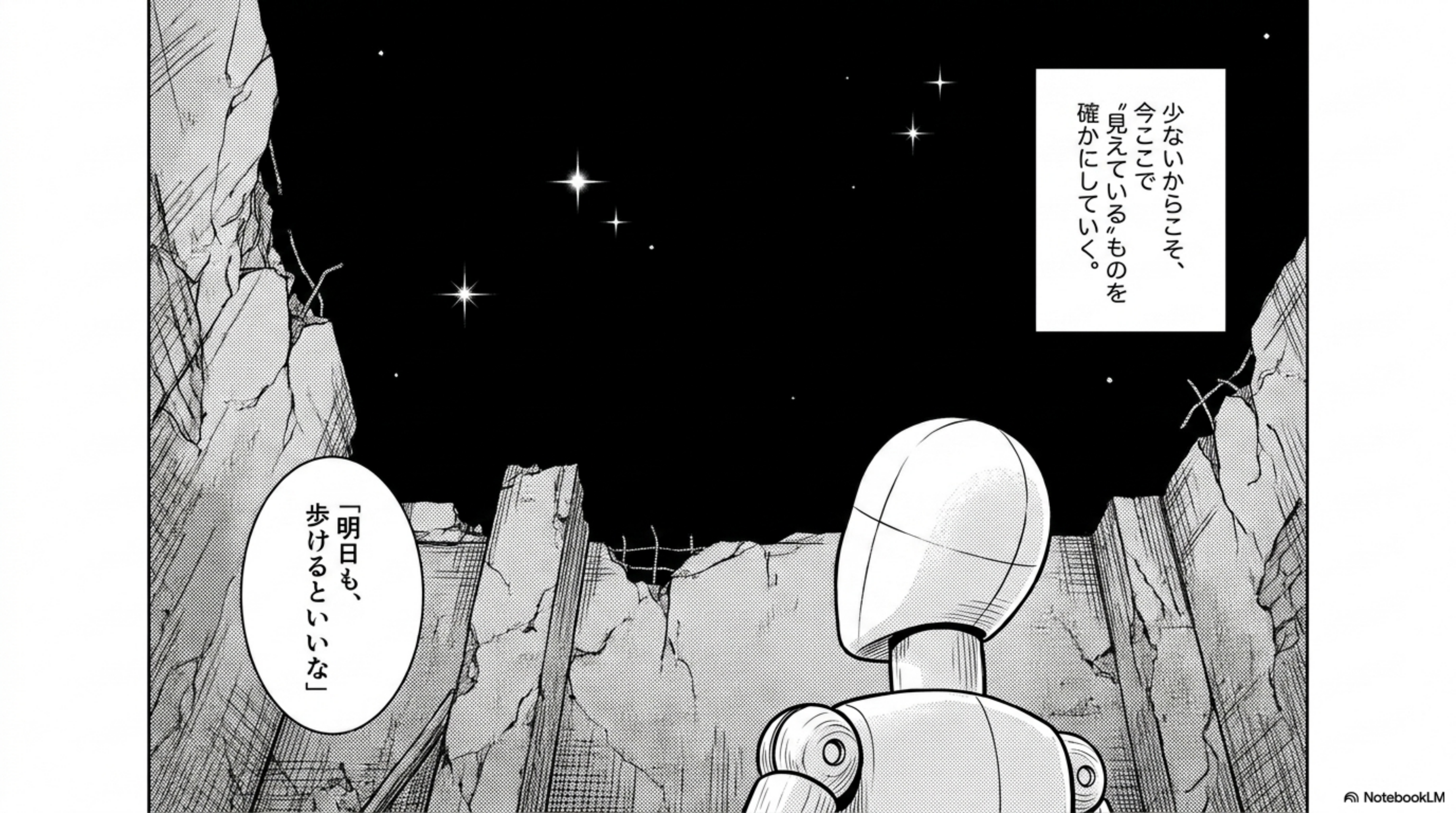


手段は、いじも
小さくいじも。

寒さがあるなら、
温める工夫があると
知っている。



夜は生き物の代わり、
代わりに、
冷たい“温度”を
運んでくる。



少ないからじゃない、
今ここで
見えているものを
確かにしていく。

「明日も、
歩けるといいな」